



記録された 日本美術史

相見香雨
あいみ こうう

田中一松
たなか いちまつ

土居次義
どい つぎよし
の
調査ノート
展

2018年 5月12日 | 土 | ~ 6月16日 | 土 |

○開館時間 10-17時 (入館は16時30分まで)
(ただし5月25日(金)は17時30分まで)

○休館日 日曜日 (ただし5月20日は開館)

○入館料 無料

○会場 実践女子大学香雪記念資料館
企画展示室1・2 下田歌子記念室

○主催 京都工芸繊維大学美術工芸資料館・実践女子大学香雪記念資料館

○後援 美術史学会、渋谷区教育委員会

実践女子大学香雪記念資料館

〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49

実践女子大学キャンパス内

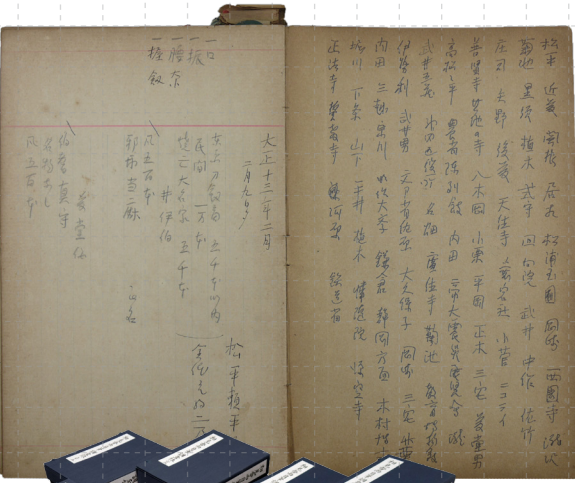
電話 03-6450-6805

<http://www.jissen.ac.jp/kosetsu/>

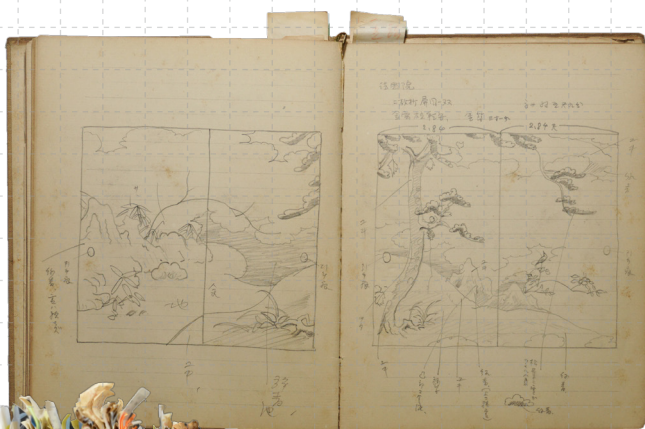
作品の調査と記録は、いつの時代も美術史研究の出発点です。日本における美術史学が草創期から形成期に入った大正・昭和期、幅広く数多く調査を続けた、相見香雨（1874～1970）田中一松（1895～1983）土居次義（1906～91）。三人の研究者の調査ノートには、三者三様の流儀で作品の記録が連ねられています。当時は、撮影や複写が容易でないことに加え、社会情勢の変化によるコレクションの散逸や、災害や戦争による文化財の破損など、作品をめぐる状況が揺れ動き、目の前の作品の記録をとる行為の切実さは一際強いものでした。三者の記録を通して、美術史学の歩みを回顧すると同時に、調査ノートにとどめられた研究者の目の記憶を再現します。

相見香雨

島根県松江市出身。新聞編集者を経て明治41年より審美書院で美術書編纂に従事。琳派・文人画・画譜等を中心に日本絵画史論考を多数発表。在野の立場で優れた実証的研究を続け、78歳で文化財保護委員に就任。



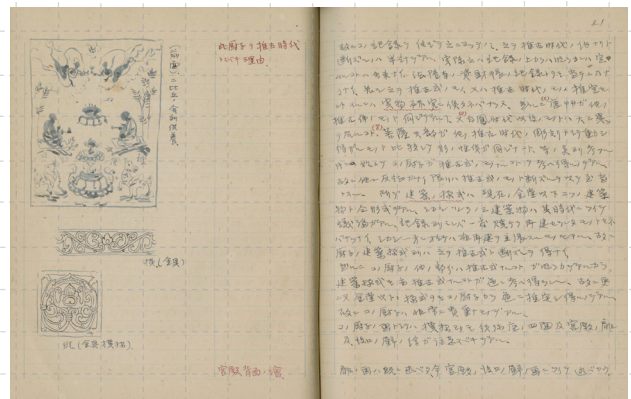
土居次義



大阪市出身。学生時代から京都を中心とする寺院の障壁画調査に携わる。岩の皴法など細部の比較によって画家を判別し、筆者を特定する手法をとった。狩野山楽、長谷川等伯に関する研究を筆頭に、近世の諸画家について多数の論考を発表。



田中一松



山形県鶴岡市出身。第二次世界大戦中を含む半世紀以上、文化財保護行政の中枢を担っていた。全国の所蔵者のもと膨大な点数の絵画作品を実査。研究対象は、水墨画、大和絵をはじめ、仏画、宋元画、琳派と広範囲に及ぶ。内容豊富で克明なその調査記録は「昭和の古画備考」と呼ばれる。



上：相見香雨自筆調査録より「大正十三年二月／三十」（表紙裏、『罹災美術品目録』調査先）、右下：田中一松資料より『玉虫厨子（東京帝国大学の講義ノート『鑑精一氏述日本絵画史（推古白鳳天平三時代）大正九年度講義』）、左下：土居次義調査研究ノートより『法然院屏風調査（昭和九年）』

【関連イベント】

ギャラリートーク
日時：5月25日（金）17時～
6月2日（土）14時～

【アクセス】

JR／東京メトロ／東急／京王「渋谷駅」
東口から徒歩約10分
東京メトロ「表参道駅」
B1出口から徒歩約12分
香雪記念資料館は、実践女子大学渋谷キャンパスの創立120周年記念館1階にございます。ご来館の際には、駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください。また、六本木通り沿いにある正面入口右手の警備室に入館の旨をお伝えください。

※本展覧会の準備にあたっては、公益財団法人 出光文化福祉財団より、平成29年度調査・研究事業助成を受けました。

【京都工芸繊維大学美術工芸資料館】

2018年6月25日（月）～8月11日（土・祝）
〒606-8585
京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町
電話 075-724-7924
<http://www.museum.kit.ac.jp/>

京都展予告

実践女子大学香雪記念資料館

Kosetsu Memorial Museum
Jissen Women's University
〒150-8538
東京都渋谷区東1-1-49
電話 03-6450-6805
HP <http://www.jissen.ac.jp/kosetsu/>

